

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、27年度目標値に対する平成28年1月末の評価値で算出

評価計画						自己評価						学校関係者評価					
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	27年度目標値	26年度	27年度	27年度達成度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント			
							評価値	評価値									
確かな学力の育成	基礎学力の定着	望ましい学習習慣の形成	教務	望ましい学習習慣の形成と学力の向上 ①授業の始めと終わりの時間厳守、挨拶の徹底と、望ましい授業態度の育成	(1)望ましい授業態度が身に付いている生徒の割合(昨年目標値95%)	98%	97%	96%	98%	B	1年生のアンケート結果が89%と低い数値になった。元気がよく積極的な発言も見られるが、けじめのある態度で授業に参加するよう指導していく必要がある。また、指導する側の授業力を向上させていく必要があると考えられる。	生徒アンケート①と②	B	4,5年前から、全体的には勉強する体制になってきていてよい傾向である。 学力養成の点で向上が見られ、結果に表れている。 生徒たちが資格取得にも力を入れている状況がうかがえ、成果が表れている。			
				②適切な課題による家庭学習の習慣化	(2)課題等を提出している生徒の割合	95%	93%	92%	97%	B	昨年度より1ポイント提出率が下がったが、特に2学期の提出率が1・2年生で80%台になったことが原因である。今後も全教員で共通認識を持ち、粘り強い指導をしていくことが必要である。	校内統計					
		個に応じた教育の推進	教務	TT及び個別指導の実施 ①TT・少人数指導の効果的な実施 ②個別指導の充実	(3)教材や教え方が工夫されていて、授業内容が理解しやすいと感じている生徒の割合	87%	86%	81%	93%	B	(1)との結果とも連動していると考えられるが、1年生の方で低い数値が出ている。授業評価も取り入れながら、指導力の向上を図っていかねばならない。	生徒アンケート⑥					
	読書習慣の育成	図書	読書への意欲喚起 ①利用しやすい雰囲気作り ②図書購入リストの実施 ③「図書館だより」の充実 ④朝読書の支援	(4)朝読書に意欲的に取り組んでいる生徒の割合	95%	95%	96%	101%	B	2,3年生は97%とほぼ全員が真面目に取り組んでいる様子が見え、1年生が95%と全体から見ると若干低い数値となった。学校全体としては年々良くなってきているので、今後も良い雰囲気が続けられるよう支援心がけたい。	生徒アンケート③						
				専門高校の特色を生かす	商業・情報教育の推進	商業	特色ある商業・情報教育の推進 ①充実した施設・設備を活かした先進的な授業の実施 ②資格取得・検定合格のための指導の充実 ③情報パートの内容充実とビジネスマナー教育の推進	(5)県商研表彰生徒(1級2種目以上取得等)の割合が3年生(67人)の20%以上	100%	94%	75%	80%			B	3年生10名が表彰生徒となり、昨年の16名からは減少したが、国家試験をはじめ、上位級を意欲的に受験する生徒が例年以上に増えた。また、資格取得が他学科と比較難しいマルチメディア科の生徒が4種目合格をするなど、向上心を持って取り組む雰囲気が高まってきている。	校内統計
							(6)情報処理国家試験の合格人数5名以上	100%	60%	80%	80%	B			ITパスポート試験合格者は3名にとどまったが、難易度の高い基本情報技術者試験にも2年生が1名合格し、さらに高い目標に向かって意欲的に取り組む雰囲気が出来上がってきた。県のIT人材育成事業も始まり、今後より一層情報教育の底上げと、上位資格に合格できるよう指導方法の工夫と改善を図りたい。	校内統計	
	(7)情報パートでの経験は自分にとって役立つと感じた生徒の割合	95%	92%	92%	97%	B	パートは商品売るだけでなく、案内、掃除、駐車場の誘導など数多くの役割があり、事後アンケートでは多くの生徒が責任とやりがいを見出しながら活動する様子が例年以上に多く伺えた。今後は更に良い学校行事となるようあり方を変えていくことも視野に、望ましい勤務観や自尊感情を育む取り組みを行ってきたい。	生徒アンケート④									
	豊かな人間性の育成	基本的生活習慣の確立と学校生活の充実を図る	望ましい生活習慣の育成	教務 生徒 商業	基本的な生活習慣を育成する指導 ①個々の登校状況を把握し、全教員が連携した欠席・遅刻の防止(週2回、月5回以上の遅刻を目安に個別指導実施) ②挨拶の励行(立ち止まって挨拶するよう指導) ③計画的指導にもとづく頭髪・服装規定の遵守、徹底 ④礼法指導の徹底(ウィークスタートの実施)	(8)毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	98%	98%	99%	B	欠席が多い生徒については校内で個々に対応を検討しているが、今後も学校と家庭が連携を取り、よりよい方向に導けるよう努力したい。			校内統計	A	(12),(13)は適切な評価のできるアンケートでなかったということなので、できることなら次年度はハイパーQIを実施していただきたい。それが可能であれば評価指標は見直すべきである。 (11)により、学級生活満足群に属する生徒の割合が全国平均よりも高いのは素晴らしいことである。
					(9)遅刻をしない生徒の割合	99%	99%	99%	100%	A	遅刻をしない割合は通院等による遅刻も含めて99.7%であり、今年度も寝坊等による遅刻が少ない状況が続いている。今後もさらに遅刻を減らせるよう全校体制で指導していきたい。	校内統計					
(10)身だしなみをきちんと整えている生徒の割合					95%	92%	96%	101%	A	概ね身だしなみを整えるようになってきている。しかし、ごく一部の生徒ではあるが、休み時間や校外等でルーズな面が見られる。進路実現を見越した頭髪・服装の意識を徹底できるよう努めたい。	校内統計						
人権教育の充実を図る		人権・同和教育の推進	生徒	他人を思いやる心、感動する心の育成 ①生徒会・部活動の活性化 ②上級生が下級生をサポートする仕組み(JS制度)の創設 ③アンケートQU(心理検査)の実施と活用	(11)自分の居場所があり、人から認められていると感じている生徒(アンケートQUで学級生活満足群に属する生徒)の割合が、52%以上<前年度の本校の値+5%>	90%	81%	100%	111%	A	学校行事全般において、上級生がリーダーシップを取り、下級生をまとめている姿勢が目立った。また、クラスでは担任の工夫がみられ、まとまりのある学級運営ができてきているクラスもある。しかし、生徒のコミュニケーション力が低下してきていることは否めない。今後は、いろいろな場面で生徒が主体的に行動がとれるよう努めたい。	アンケートQU結果 本校 58.0% 全国 36.0%					
				人権・同和教育の推進 ①生徒・保護者向けの研修機会の充実と、教職員研修の実施 ②校外の各機関との連携調整	(12)周囲への配慮が行動レベルで実行できている生徒(アンケートQUの結果)の割合が、39%以上<前年度の本校の値+5%>	90%	89%	63%	70%	C	今年度実施したアンケートQIには、評価指標(12)(13)の直接的な質問項目がなかったため、評価指標が予想できる質問項目の結果から評価値を算出した。学校生活においては、周囲への配慮について、まだまだ不十分な生徒が多いように感じる。来年度は、人間関係づくりや自他の人権尊重についての人権教育の活動を検討する。	アンケートQU結果					
				(13)周囲と能動的に関わることができる生徒(アンケートQUの結果)の割合が、36%以上<前年度の本校の値+5%>	90%	84%	80%	89%	B	生徒は積極的に活動へ参加し、事後の感想から生徒の心の動きが感じられ、いろいろな気づきがあったようである。来年度は、生徒の実態を把握した上で活動計画を立て、より効果的な活動を企画したい。	生徒アンケート⑦						
(14)人権に関わる講演会やLHRの活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合	85%	81%	86%	101%	A												

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、26年度目標値に対する平成27年1月末の評価値で算出

評価計画				自己評価						学校関係者評価				
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	27年度目標値	26年度	27年度	27年度達成度	評価	結果(課題)と改善方針について	評価値の元データ	評価	コメント
							評価値	評価値						
進路保障	進路指導の充実・強化	進路指導の充実及び定着指導の強化	進路商業総務	望ましい勤労観・職業観の育成 ①LHR等を利用した計画的な進路指導の実施 ②企業見学、インターンシップの実施 ③外部講師を招いた進路ガイダンスの実施 ④ハローワーク、県関係機関等との連携強化 ⑤進路面談の積極的実施と、進路情報の確実な提供 ⑥各種適性検査や学力模試の実施と活用 ⑦修学支援制度の活用推進	(15)在学中に進路決定する生徒の割合	100%	96%	100%	100%	A	(15)就職は好景気にも支えられて非常に順調に内定を得ることができた。進学についても順調で、11月末にはすべての生徒の進路が決定した。ただ、進路に対するこだわりや自己理解が不足気味の生徒が存在していることは否定できない。今後も1・2年次から保護者も含めた啓発活動を粘り強く行い、より満足感が得られる進路指導をすること求められると感じる。	校内統計	A	11月末時点で進路未定者がゼロというのは初ということで、景気のおかげもあるかもしれないが、素晴らしいことである。今後もそうあって欲しい。また就職先で継続するよう、学校のフォローがあるとよい。以前のように国立大学への推薦進学者がいるとよい。
				(16)進路に関する学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	90%	89%	91%	100%	A	(16)1年生の企業見学は、IT企業訪問を充実させるなど、本校に期待される人材の育成に合致するものに近づけることができた。3月の企業説明会は安来高の就職希望者も参加予定であり、一層刺激的なものになると期待している。進路希望調査は、生徒が夢を描いてそれを実現する方策が考えられるものにするべく、さらに工夫が必要と考える。	生徒アンケート⑭と⑮			
たくましく生きるための健康・体力	健康教育の推進	安全で清潔な環境作り	保健	校内美化活動の推進 ①清掃指導の徹底 ②安全点検の定期実施 ③教員及び生徒(委員)による校内巡視の実施 ④ゴミの分別収集の徹底	(17)真面目に掃除に取り組んでいる生徒の割合(昨年目標値90%)	95%	89%	92%	97%	B	清掃については、昨年より自己評価を上げることができた。責任を持って取り組んでいる生徒が多いが、取り掛かりが遅かったり、言われたことだけする生徒もいるので、今後も指導していきたい。私物のゴミの持ち帰りはかなり定着してきた。	生徒アンケート⑧	B	清掃に関する(17)についてはB判定ではあるが、目標値が高いためであり、かなり優秀であると言える。
				保健に関する啓発 ①生活習慣に関するアンケートの定期実施 ②「保健だより」「壁新聞」による意識啓発	(18)朝食をとっている生徒の割合	95%	85%	88%	93%	B	毎日朝食を摂る生徒とほぼ毎日の生徒を合わせると96%いた。引き続き、健康便りや壁新聞等で、各自の健康に気を配る生活習慣が身につくよう働きかけをしていきたい。一昨年まで検査を行っていたハンカチ所持率は著しく低下しているため、検査の必要性を感じる。	保健委員会アンケート		
		不登校の未然防止	保健	教育相談体制の充実 ①スクールカウンセラーによる教育相談の実施(月1,2回) ②「明るい学校推進委員会」の定期実施	(19)年間欠席日数が30日未満の生徒の割合	99%	98%	98%	99%	B	様々な不安を抱えながら生活している生徒が多いが、スクールカウンセラーを有効に活用し、該当生徒は相談時間を多くとりながら改善に向けた。また、明推会でも話し合いをもち、必要に応じて外部機関にも相談して、悩みを抱えたりする生徒の支援を行ってきた。今後もこの活動を継続していきたい。	校内統計	A	朝食の必要性をもっと生徒に伝え、全員がきちんと摂るよう指導すべきである。
		部活動の活性化	生徒	部活動への積極的参加の促進 ①部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実 ②外部講師の招聘	(20)部活動に入っている生徒の割合	85%	78%	88%	103%	A	文化部では、全国大会に出場する部もあり、魅力のある部活動が増えてきている。一方、運動部も熱心に取り組んではいるが、成績面で中学生にアピールするまでにはいたらない。今後は中高連携で魅力ある部活動のアピールや、リーダー育成のための研修会を設けるなど部活動の活性化に努めたい。	校内統計	A	(22)の自転車の施錠に関してはもっと厳しめの指導があってもよいのではないかと。例えば、自己責任感の育成のために、施錠しないで盗難に遭った際は自分の小遣いで購入させるぐらいの家庭での指導があってもよい。
		安全意識の高揚	生徒	安全に関する自己管理意識の高揚 ①街頭指導(春・秋)の実施 ②貴重品の管理と自転車の施錠の徹底 ③自転車点検の実施(年複数回) ④交通安全指導の実施(交通マナーの遵守) ⑤不審者情報等の情報提供、周知徹底	(21)自転車のマナーを守り、事故防止につとめている生徒の割合 (22)自転車の施錠率(昨年目標値95%)	98%	96%	96%	98%	B	今年度より道路交通法の改定に伴い自転車の交通ルールが厳しくなった。そのため、自転車マナーは向上してきている。しかし、今年度は2件外部から注意をいただき、その都度全校集会を設け注意喚起を行った。今後も、見回りや街頭指導を重ね事故防止・マナーを守る意識高揚に努めたい。	生徒アンケート⑨	B	
				90%	67%	84%	93%	B	5月の時点では、施錠率が30%ととても低い意識であった。そこで、学期に数回委員会活動を通じて調査・呼びかけを行い、11月では施錠率84%まで向上した。今後も、委員会活動の一環として調査・呼びかけを徹底し、自己管理ができる意識の高揚に努めたい。	校内統計				
信頼される学校	授業力の向上を図る	学習内容と指導の充実	教務	教科指導力の向上と分かりやすい授業の工夫 ①公開授業・研究授業の実施と互見による教科指導力の向上 ②シラバスに基づいた入念な教材研究と指導	(23)公開授業、授業参観を3回以上行った教員の割合	100%	100%	100%	100%	A	公開授業とその互見は今年度も100%を達成することができた。シラバスは各教科で検討され、改善が図られている。来年度は授業力のさらなる向上を目指し、互いに刺激を与えられるような授業が実施できるようにしたい。	校内統計	A	
				PTA活動の一層の活性化 ①「PTA会報」等の発行 ②HP・携帯電話用HPや文書による学校からの情報提供充実 ③各種研修会等の充実	(24)PTA会報、学年だより等を読んでいる保護者の割合	90%	77%	73%	81%	B	評価値は昨年度より若干下がった。来年度は引き続き、PTA組織や各学年会の協力を得ながら、内容の一層の充実を図りたい。また、学校ホームページで提供する情報についても、より一層の工夫を行っていきたい。	保護者アンケート⑦と⑧		
	地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進	保護者、地域、中学校との連携の強化・深化	総務生徒商業	地域との連携 ①地域ボランティアへの積極的な参加の奨励 ②安来市主催の催しやその他諸地域の活動への参加	(25)地域ボランティアに参加している生徒の割合 ①生徒数に対する参加申込人数割合 ②依頼件数に対する参加割合	60%	42%	①41% ②91%	①68% ②152%	A	試験期間中のボランティア依頼以外はすべて参加をすることができた。参加人数については、依頼人数等もあり参加人数割合は低いが、積極的にボランティア活動に参加する生徒が増えてきている。今後は、依頼のあるボランティア活動だけでなく、地域の奉仕作業や公共施設の清掃活動など積極的に取り入れていきたい。	校内統計	B	(23)の教員の授業参観は目標が達成できているので、回数を元の5回に戻して、継続的に授業改善に努めて欲しい。
				中学校との連携 ①出前授業、招待授業の実施 ②オープンキャンパス実施 ③中高連絡会の充実と学校説明会への積極的参加 ④部活動での連携 ⑤小中学校教員対象研修の実施 ⑥合同教科部会、合同公開授業の実施	(26)連携ができたと感じている教職員の割合(昨年目標値70%)	75%	68%	50%	67%	C	今年度目標値よりかなり低い評価値となっている。今後、関係のあり方について各部署での検討が必要であると思われる。	教員アンケート⑩		